

## < 浅海・内水面増養殖関係 >

### 近海漁業資源の家魚化システムの開発 に関する総合研究（抄録）

#### イタヤガいの放流通期及び放流場の選定基準

吉尾二郎

マリーンランティング計画第2期の手はじめとして、江津市敬川沖で行った放流実験の概要を以下に報告する。詳細はプロGRESS・レポート(4)を参照されたい。

#### 概 要

昭和58年7月13日～8月4日にかけて大・小合計21万個の集中放流を行い、放流直後からの水中テレビによる観察、その後の刺網による追跡を行った。水中テレビによる観察では、小型のイタヤガイ（平均殻長17.3mm）は放流直後から逸散を開始し、わずかな潮流に流されながらテレビの視野から消えていくことが確認された。また、放流直後からショウサイフグ、カワハギ、ウマズラハギによる被食も観察された。

大型イタヤガイ（平均殻長68.4mm）については、わずかに底を這う様に移動するものが認められたが、全般に大きな移動は認められなかった。大型個体を攻撃した害敵生物としては、カワハギ、ウマズラハギ、ヌタウナギ、ヤツデスナヒトデ、テングニシが確認された。これら害敵生物の中でも、ヌタウナギは夜間のみ出現したが、集団で大量のイタヤガイを攻撃捕食した。

刺網による放流後の調査では、放流地点で69個の大型イタヤガイが再捕され、大型イタヤガイの放流地点での残存が確認された。